

梅鶯仏教壮年会報

第102号
2012年
12月16日

梅鶯仏教壮築地本願寺参拝

去る十一月十日・十一日に本年度の聞法親睦旅行として、東京の築地本願寺（大谷光真門主住職、大谷光淳新門副住職）にお参りをしました。

十日の夜には美しくライトアップされた築地本願寺を拝観し、十一日の早朝には朝の勤行に参拝して、その後に不二川公勝宗務長（浄土真宗本願寺派前総長）を表敬訪問し、コーヒーをご馳走になりながら暫しの歓談をさせて頂きました。

充実したあつという間の楽しい二日間でした。



幻想的な東京築地本願寺



本堂外陣



不二川宗務長と

お知らせ

法輪寺住職著「語り合い尋ねる聞法の世界」が

十二月十五日に発刊されます。

未来に思うこと

北村新一郎



今年も十二月に入り、霜の降る日が多くなつて参りました。

冬野菜の代表といえる大根、かぶ、ネギ等を、おいしく頂いていける今日この頃です。

この時期気温の低下と同じく気の沈むことが起ります。寂しい知らせが届くのです。賀状欠礼の名目で、一人又一人と。人たちが年賀状の便りがあつた知人たちが多くなつておられます。その度に御文章の「白骨の章」が頭にうかび、心の中で思わず唱えてしまします。

実に寂しい思いがつのるばかりです。

皆様方におかれましては、どうぞ末永くご自愛をして下さいとお願ひするばかりです。

いま一つは、この年末においてはお報恩講です。

昭和三十年代においては、お宿の番の方々には、一週間のお勤めの為に一年をかけて、家、屋敷の掃除、仏壇の掃除、仏具みがき、おけそくの準備、ご馳走づくり、膳・茶碗類の準備とたいへんなご

苦勞を頂きました。

も今日では、約二日のお勤めとなりましては、お宿でのご負担は昔と大差はないでしょう。

の助け合い、協力しながら、このお勤めが今日まで続いていくのも、一仏様を敬う心「先祖の心を大切に思う心」一仕事に励む心「でもって、苦しい生活の中にあつても、人生を前向きに生きてこられたご先祖の方々に感謝の気持ちを持ちつて続けたい」という一言に全てこめられていられること、感謝します。

報恩講に参加できること、続けられます。

合掌

竹灯籠の夕べ

十二月三十日（日）

夜6時 ～ 竹灯籠点灯
夜6時半 ～ お勤め

1



住職門徒宅法話より